

建築士の受験資格について

一級建築士ならびに二級・木造建築士の受験資格を得るためには、下記の表－１に定める所定の必要単位数を在学期間中に取得する必要があります。必要単位は一級建築士では①～⑩、二級・木造建築士ではイ～ホの分野ごとに定められており、総取得単位数に応じて実務経験として必要となる年数が表－２、３のように変化することとなります。卒業に必要な単位と、ここに記載している建築士の受験資格は直接対応していませんので、入学初年次より計画的な科目の履修が重要となります。なお、建築士受験資格の詳細は財団法人建築技術教育普及センターのＨＰ（<http://www.jaeic.or.jp/>）を参照してください。

表－１ 建築士受験資格の必要取得単位数一覧

指定科目の分類 (単位数)		受験資格獲得のために 必要な指定科目		
二級・木造	一級	科目名	開講 年次	単位数
イ. 建築設計 製図 実務0～2年 (5単位以上)	①建築設計 製図 (7単位以上)	設計製図基礎	1	2
		製図基礎 1	1	2
		製図基礎 2	2	3
		建築設計 1	2	2
		建築設計 2	3	2
		建築設計 3	3	2
		CADデザイン論・演習	3	2
		ロ. 建築計画 建築環境 工学又は 建築設備 実務0～2年 (7単位以上)	②建築計画 (7単位以上)	住宅地計画
現代建築論	3			2
建築デザイン論	3			2
まちづくり論	3			2
都市計画	3			2
建築史	2			2
地域計画	2			2
建築計画 1	2			2
建築計画 2	3			2
文化財保存・計画学	3			2
建築都市計画概論	2			2
建築・都市史概論	2			2
③建築環境 工学 (2単位以上)	建築音響学		3	2
	光環境学		2	2
	温熱空気環境学		2	2
④建築設備 (2単位以上)	給排水設備		3	2
	空気調和設備		3	2
	電気設備		3	2

指定科目の分類 (単位数)		受験資格獲得のために 必要な指定科目		
二級・木造	一級	科目名	開講 年次	単位数
ハ. 構造力学, 建築一般 構造又は 建築材料 実務0～2年 (6単位以上)	⑤構造力学 (4単位以上)	構造力学 1	1	2
		構造力学 2	2	2
		構造力学 3	2	2
		土の科学	2	2
		地盤工学	2	2
		構造力学演習 1	1	1
		構造力学演習 2	2	1
		構造力学演習 3	2	1
		骨組構造の力学	4	2
		耐震構造	3	2
		防災工学	2	2
		構造・材料実験	3	2
	⑥建築一般 構造 (3単位以上)	鉄骨構造	3	2
		建築構造設計論	3	2
		鉄筋コンクリート構造	3	2
		建築基礎構造	3	2
	⑦建築材料 (2単位以上)	構造物設計法	4	2
		建築材料	3	2
		コンクリート工学	2	2
		建設材料概論	1	2
二. 建築生産 (1単位以上)	⑧建築生産 (2単位以上)	建築施工	3	2
		建築構法	3	2
		建築生産・工業化技術	3	2
ホ. 建築法規 (1単位以上)	⑨建築法規 (1単位以上)	建築・都市関連法規	3	2
ヘ. その他 (適宜)	⑩その他 (適宜)	測量学	3	2
		測量実習	3	2
		環境工学概論	1	2
		工学基礎実験	3	2
		建設工学概論	1	2
		地域デザイン 2	3	2
		地域デザイン 3	3	2
		都市環境工学実験	3	2
		景観デザイン	3	2

表－２ 必要実務経験（一級建築士）

	A	B
実務経験 2 年	①～⑩の総単位数60単位以上	①～⑨の総単位数 30単位以上（＊）
実務経験 3 年	①～⑩の総単位数50単位以上	
実務経験 4 年	①～⑩の総単位数40単位以上	

☆AとBの両方の条件を満たすこと。

＊①～⑨の分野については、表－１に記載された各分野の必要単位数を全て満足させること。

（①～⑨の各分野における必要単位数を全て満たすことにより、Bの総単位数は30単位以上となるため、Bの条件は自動的に満足します）

表－３ 必要実務経験（二級・木造建築士）

	C	D
実務経験 0 年	イ～ホの総単位数40単位以上	イ～ホの総単位数 20単位以上（＊）
実務経験 1 年	イ～ホの総単位数30単位以上	
実務経験 2 年	イ～ホの総単位数20単位以上	

☆CとDの両方の条件を満たすこと。

＊イ～ホの分野については、表－１に記載された各分野の必要単位数を全て満足させること。

（イ～ホの各分野における必要単位数を全て満たすことにより、Dの総単位数は20単位以上となるため、Dの条件は自動的に満足します）